

9 芸術 書道

<目 次>

- | | | |
|---|---|-------------|
| 1 | 「指導と評価の年間計画及び評価規準の作成の手引き」 | P . 1 ~ 3 |
| | 【参考】 | |
| | 「高等学校における評価基準、評価方法等の研究開発」
(報告) | P . 4 ~ 8 |
| | - 高等学校 芸術科 (書道) - | |
| 2 | 「指導と評価の年間計画」(例)
「書道」 | P . 9 ~ 10 |
| 3 | 「单元ごとの指導と評価の計画」(例)
「漢字仮名交じりの書1」 | P . 11 ~ 14 |
| 4 | 「授業指導案」(例)
「書道」の「漢字仮名交じりの書1」の「第3時限目」 | P . 15 |

1 指導と評価の年間計画及び評価規準の作成の手引き

1 「指導と評価の年間計画」(P9)について

これは3の「評価規準を含んだ指導と評価の計画」(単元ごとの指導と評価の計画)の全単元について、その概要を記述したものである。

生徒の学習活動に対するより適正な評価、及び生徒の学習の改善に生かされる評価(指導と評価の一体化)の実現を目指して、次の特色を持った年間計画となっている。

従来作られてきた指導計画の多くは、授業内容(指導内容)を単に1年間の授業時間数に対して配分しただけに留まったが、この計画では、今回の学習指導要領の趣旨を踏まえて、各単元の主な「学習活動(指導内容)と評価のポイント」や「評価方法」をも含めて記述してある。

「評価の方法」を記述し、評価から評定への道筋が明確、且つ説得力のあるものとなるように記述してある。なお、「評価から評定を決める方法」は、本資料の共通資料の中に具体例が示してあるので、参照されたい。

2 「評価規準を含んだ指導と評価の計画(P11)」(単元ごとの指導と評価の計画)について

学習指導要領に基づく「評価規準を含んだ指導と評価の計画」は、言い換えれば、評価規準を盛り込んだ「単元の指導と評価の計画」である。次の特色をもつ。

選択必修科目である「書道」の科目全体の評価規準を示した。

ひとつの単元について、「単元ごとの評価規準」及び単元の「各授業時間ごと主な内容」を示した。

各授業時間ごとの主な内容には、「主な学習内容」と「主な学習活動・評価の観点」及び「評価の方法・指導」を示した。

「主な学習活動・評価の観点」は、上記の「指導と評価の年間計画」の「主な学習活動(指導内容)と評価のポイント」に反映している。

「主な学習活動・評価の観点」は、上記の「単元ごとの評価規準」の4観点を具体化したものでなければならない。

単元ごとの評価規準(例)

関心・意欲・態度	芸術的な感受や表現の工夫	創造的な表現の技能	鑑賞の能力
A	B	C	D

芸術（書道）

各授業時間ごとの主な内容（例）

1 項目名		(授業名)	
	主な学習内容	主な学習活動・評価の観点	評価の方法・指導
第1 時 間 目	・学習内容の主な項目を記載	・前ページAの具体的な内容【関】 ・前ページBの具体的な内容【工】 評価の観点は次のように略記 【関心・意欲・態度】 = 【関】 【芸術的な感受や表現の工夫】 = 【工】 【創造的な表現の技能】 = 【技】 【鑑賞の能力】 = 【鑑】	・評価の具体的な方法及び指導のポイントを記載
第2 時		・前ページCの具体的な内容 ・前ページDの具体的な内容	・評価の具体的な方法及び指導のポイントを記載

【参考】

指導と評価に関するキーワードとその意味 等

絶対評価

学習指導要領に示す目標に照らしてその実現状況を見る評価。目標に準拠した評価。

相対評価

学年、学級の中での相対的な位置付けを明らかにする評価。集団に準拠した評価。

個人内評価

生徒ごとのよい点や可能性、進歩の状況などの評価。努力を要する点を伝えることも必要。

評価規準

題材の目標を生徒がどの程度実現しているのかを把握する評価の窓口で、生徒の学習における「おおむね満足できる状況」を示したもの。Bの範疇を示すもので、Aを含むもの。

評価基準

生徒の学習におけるAとB、BとCの境目を意識し、その違いを明確に示そうとするもの。目標達成に対する物差し的な性格をもったもの。

指導と評価の一体化

評価の結果によって後の指導を改善し、さらに新しい指導の成果を再度評価するという、指導に生かす評価を充実すること。評価のための評価に終わらない。評価ができる指導をする。

観点別評価を進める上で大切なこと

「おおむね満足できる状況」として示した評価規準（Aを含むB）に照らして評価を進める。

生徒の学習の状況や結果が、B（おおむね満足できる状況）であることを確認する。

Cと判断せざるを得ない生徒の学習状況にまず意識を向け、少しでもBに近づくよう指導・援助を継続する。

その上でA（十分満足できる状況）に質的に高まったと判断できる点を把握する。

* 単位時間ごとの評価規準を明確に設定しておくことが必要。

3 「評価規準の作成の手引き」

評価規準については、次の内容構成で作成する。

- ・科目の目標 …学習指導要領に示す当該科目の目標
- ・科目の評価の観点及びその趣旨 …学習指導要領及び指導要録改善通知に示された当該教科の評価の観点及びその趣旨をもとに作成。
具体的には、「高等学校における評価規準、評価方法等の研究開発（報告）」に記載されたもの。
- ・項目ごとの評価規準…学習指導要領の「内容」の(1)～(3)の項目ごとの評価規準。
「高等学校における評価規準、評価方法等の研究開発」に記載されたもの。
 - ・単元の目標 …実際の使用教科書等に基づいた授業の進度に沿って単元ごとに示した目標。
学習指導要領の項目ごとのねらいを基本に記載。
 - ・単元の評価規準…単元ごとに4観点別に示した評価規準。「内容のまとめりごとの評価規準」を単元の内容に即して具体化したもの。
「高等学校における評価規準、評価方法等の研究開発」に「内容のまとめりごと」の「評価規準の具体例」として記載されたものを基本に記載。
 - ・各授業時間ごとの具体的評価規準と方法 …各授業時間ごとに、単元ごとの評価規準に基づく具体的な評価規準とその方法を示したもの。

留意点

- (1) 「内容のまとめり」はあくまで学習指導要領に示された内容に基づいており、使用する教科書等に基づく単元とは一致していない。
- (2) 「指導と評価の年間計画」等に記載した授業時間は、2単位で実施し、年間70時間の授業を想定したものである。

芸術（書道）

【参考】

高等学校における評価基準、評価方法等の研究開発 - 高等学校 芸術科（書道） -

第1 教科目標、評価の観点及びその趣旨等

1 教科目標

芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、豊かな情操を養う。

2 評価の観点及びその趣旨

関心・意欲・態度	芸術的な感受や表現の工夫	創造的な表現の技能	鑑賞の能力
芸術を愛好し、芸術文化を尊重するとともに、個性を生かして意欲的、主体的に表現や鑑賞の活動を行い、その喜びを味わおうとする。	感性を働かせて芸術のよさや美しさを感じ取り、創造的に表現を工夫する。	創造的な芸術表現をするために必要な技能を身に付けている。	芸術を幅広く理解し、そのよさや美しさを深く味わう。

第2 各科目の評価の観点の趣旨

	関心・意欲・態度	芸術的な感受や表現の工夫	創造的な表現の技能	鑑賞の能力
書道	書を愛好し、意欲的、主体的に表現や鑑賞の活動を行い、その喜びを味わおうとする。	感性を豊かにし、書のよさや美しさを感じ取り、自らの意図に基づき構想し、創造的に表現を工夫する。	創造的な表現をするために書写能力を高め、用具・用材を生かして表現する技能を身に付けている。	日常生活における書の効用や日本及び中国等の書の文化などを理解し、そのよさや美しさを味わう。
書道	書を愛好し、書の文化や伝統について関心をもち、意欲的、主体的に表現や鑑賞の活動を行い、その喜びを味わおうとする。	感性を高め、書のよさや美しさを感じ取り、感興や意図に応じて素材を選定し、個性豊かで創造的な表現を工夫する。	個性豊かに創造的な表現をするために、様々な形式に応じて表現する技能を身に付けている。	書の美の諸要素を把握し、書の現代的意義や日本及び中国等の書の歴史・文化などの理解を深め、そのよさや美しさを味わう。
書道	書を愛好し、書の文化や伝統を尊重するとともに、個性を生かして意欲的、主体的に表現や鑑賞の活動を行い、その喜びを味わおうとする。	感性を磨き、書のよさや美しさを感じ取り、個性豊かで創造的な表現を工夫する。	個性豊かに創造的な表現をするために、素材を生かした効果的な表現の技能を身に付けている。	書の美の多様性と作品の特徴を把握し、日本及び中国等の書の伝統と諸文化との関連などを幅広く理解し、そのよさや美しさを深く味わう。

第3 必履修科目における内容のまとめりごとの評価規準及びその具体例

書道

1 目標

書道の幅広い活動を通して、書を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、書写能力を高め、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばす。

2 評価の観点の趣旨

関心・意欲・態度	芸術的な感受や表現の工夫	創造的な表現の技能	鑑賞の能力
書を愛好し、意欲的、主体的に表現や鑑賞の活動を行い、その喜びを味わおうとする。	感性を豊かにし、書のよさや美しさを感じ取り、自らの意図に基づき構想し、表現を工夫する。	創造的な表現をするために書写能力を高め、用具・用材を生かした表現の技能を身に付ける。	日常生活における書の効用日本及び中国等の書の文化などを理解し、そのよさや美しさを味わう。

3 学習指導要領の内容、内容のまとめりごとの評価規準及びその具体例

書道 においては、学習指導要領の内容の「A表現」の活動分野である「(1)漢字仮名交じりの書」、「(2)漢字の書」、「(3)仮名の書」と「B鑑賞」の四つを内容のまとめりとして、これらごとに評価規準を作成した。

(1)「A表現 (1)漢字仮名交じりの書」

【学習指導要領の内容】

表現に関して、次の事項を指導する。

- (1) 漢字仮名交じりの書
- ア 表現と用具・用材との基本的な関係
 - イ 漢字と仮名の調和した線質の表し方
 - ウ 字形、文字の大きさと全体構成
 - エ 目的や用途に即した形式の表し方
 - オ 意図に基づく表現の構想と工夫

【「A表現 (1)漢字仮名交じりの書」の評価規準】

関心・意欲・態度	芸術的な感受や表現の工夫	創造的な表現の技能
漢字仮名交じりの書を通して、生活に即した書表現に関心をもち、意欲的、主体的に活動を行い、その喜びを味わおうとする。	感性を豊かにし、漢字仮名交じりの書のよさや美しさを感じ取り、創造的な表現を工夫する。	書写能力を高め、実用的な表現や芸術的な表現の基礎的な技能を身に付けている。漢字仮名交じりの書を通して、自己を主体的に表現する能力を伸ばしている。

【「A 表現 (1) 漢字仮名交じりの書」の評価規準の具体例】

関心・意欲・態度	芸術的な感受や表現の工夫	創造的な表現の技能
<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な用具・用材に関する知識や扱い方を身に付け、用具・用材と表現との関係に関心をもっている。 ・用具・用材の種類や用い方などを理解し、意欲的に効果的な表現をしようとしている。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢字と仮名の調和と線質との関係について関心をもち、意欲的、主体的に表現や鑑賞の活動を行って 	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・用具・用材によって線質や表現が変わることを理解し、表現を工夫している。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・線質が漢字と仮名の調和を図る重要な要素であることを理解している。 ・漢字と仮名の調和した線質 	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・用具・用材の特性を生かした表現効果を理解し、表現に応じた用具・用材を選択している。 ・用具・用材と表現効果が密接に関係していることを理解し、創造的な表現につなげている。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実用的な表現や芸術的な表現の幅を広げ、漢字と仮名の線質の調和を図る技能を身に付けている。

芸術（書道）

る。	の表し方やその美しさを理解し、表現を工夫している。	
ウ ・漢字と仮名の文字や字形について関心を高め、自らの構想に基づいて意欲的、主体的に活動を行っている。	ウ ・漢字と仮名の字形や文字の大きさなどが全体の構成に関わることを理解し、表現を工夫している。	ウ ・文字や文字群と余白との関係を理解し、全体の構成を考えた創造的な表現をしている。
エ ・目的や用途に即した芸術的・実用的な表現について基礎的な事項を理解し、自ら表現活動を楽しんでいる。	エ ・目的や用途に即した形式と表し方を判断し、文字の大きさ、配列、書体など、それぞれに適した表現を工夫している。	エ ・芸術的な表現や実用的な表現に応じた形式と表し方を理解し、目的や用途に即して表現する技能を身に付けている。
オ ・表現の構想から完成にいたるまでの充足感や喜びの体験を通して、主体的に自己実現を果たしていく態度が身に付いている。	オ ・自らの表現意欲を高め、用具・用材の使い方を理解し、線質、字形、全体構成などについて積極的に工夫している。	オ ・用具・用材、線質、字形、全体構成などを工夫し、意図に基づく創造的な表現をしている。

（２）「A表現（２）漢字の書」

【学習指導要領の内容】

（２）漢字の書

ア 古典に基づく基本的な点画や線質の表し方と用筆・運筆の関係

イ 字形の構成、全体の構成

ウ 意図に基づく表現の構想と工夫

【「A表現（２）漢字の書」の評価規準】

関心・意欲・態度	芸術的な感受や表現の工夫	創造的な表現の技能
漢字の書を通して、書の高さに関心をもち、意欲的・主体的に活動を行い、その喜びを味わおうとする。	感性を豊かにし、漢字の書の高さや美しさを感じ取り、普遍性に裏打ちされた創造的な表現を工夫する。	漢字の書を通して、自己を主体的に表現する能力を伸ばし、基礎的な技能を身に付けている。

【「A表現（２）漢字の書」の評価規準の具体例】

関心・意欲・態度	芸術的な感受や表現の工夫	創造的な表現の技能
ア ・表現技法の基礎・基本を身に付け、書写能力の向上に努めている。 ・古典の美とその技法に関心をもち、表現技法を高めようとしている。	ア ・漢字の書の高に対する感性を養い、意図に基づく表現の構想を工夫している。 ・古典の美とその技法を学び、普遍性のある表現力を身に付けている。	ア ・基本的な点画や線質の表し方と用筆・運筆の関係を把握している。 ・表現技法を高めるために、姿勢、執筆法などの基本的事項を身に付けている。
イ ・自らの感性や自発的な意図に基づいて、字形・全体の構成の工夫に取り組んでいる。 ・字形や線質と筆者の感興と意図との関わりに関心をもち	イ ・漢字の書の構築的な構造や変化と統一などを理解し、字形・全体の構成を工夫している。	イ ・字形の構成や全体の構成の要素を理解し、創造的な表現につなげている。

<p>ち、意欲的に古典の美とその技法を学んでいる。</p> <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 漢字の書の意欲的な表現活動を通して、意図的・主体的に表現の構想から完成に至るまでの充実感や喜びを味わっている。 	<p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己の表現のねらいを達成するために古典のもつ伝統的な美を感受し、表現方法を工夫している。 	<p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 自発的な意図に基づいて詩文の選定、基本的な作品形態、全体構成の方法、用具・用材の選定等を理解し、創造的な表現をしている。
--	---	---

（３）「A表現（３）仮名の書」

【学習指導要領の内容】

（３） 仮名の書

- ア 古典に基づく基本的な点画や線質の表し方と用筆・運筆の関係
- イ 単体、連綿と全体の構成
- ウ 意図に基づく表現の構想と工夫

【「A表現（３）仮名の書」の評価規準】

関心・意欲・態度	芸術的な感受や表現の工夫	創造的な表現の技能
仮名の書を通して、日本の伝統的な書の美に関心をもち、意欲的・主体的に活動を行い、その喜びを味わおうとする。	感性を豊かにし、仮名の書独特の名筆の表現のよさや美しさを感じ取り、創造的な表現を工夫する。	仮名の書を表現するために必要な仮名の線の線質を理解し、基礎的な技能を身に付ける。

【「A表現（３）仮名の書」の評価規準の具体例】

関心・意欲・態度	芸術的な感受や表現の工夫	創造的な表現の技能
<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 古典の学習により、書写で学んだ仮名との差異に気づき、名筆や技法に関心をもち、意欲的に仮名の美を味わっている。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 自らの感性や自発的な意図に基づいて、単体・連綿や全体の構成の工夫に取り組んでいる。 単体・連綿や線質と筆者の感興と意図との関わりに関心をもち、意欲的に古典の美とその技法を学んでいる。 <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 仮名の書の意欲的な表現活動を通して、意図的・主体的に表現の構想から完成に至るまでの充実感や喜びを味わっている。 	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 仮名の書の美に対する感性を養い、意図に基づいて字形や線質を工夫している。 古典の学習により、仮名の表現の基本的な用筆・運筆の技法を身に付け、表現を工夫している。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 名筆を通して、単体、連綿と全体の構成など日本の伝統的な書の美を感受している。 仮名の線の特徴を理解し、その技法を自己の表現に生かすよう工夫している。 <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己の表現のねらいを達成するために古典のもつ伝統的な美を感受し、表現方法を工夫している。 	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 仮名の基本的な線質と用筆・運筆の関係を理解し、創造的な表現をしている。 表現技法を高めるために、用具・用材、姿勢、執筆法などの基本的事項を身に付けている。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 運筆の律動性や筆脈の把握を通して、仮名の美の特質を理解し、その技法を身に付けている。 基本的な構成等を理解し、創造的な表現につなげている。 <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 自発的な意図に基づいて、全体構成や字形、線質、墨色などを工夫し、創造的な表現をしている。

芸術（書道）

（４）「B鑑賞」

【学習指導要領の内容】

鑑賞に関して、次の事項を指導する。

- ア 日常生活における書への関心と効用
- イ 書のみしさと表現効果
- ウ 日本及び中国等の書の文化

【「B鑑賞」の評価規準】

関心・意欲・態度	鑑賞の能力
鑑賞活動を通して、書を愛好し、日常生活における書への関心を高め、書のよさや美しさを感じ取り、意欲的・主体的にその美しさを味わおうとする。	日常生活における書の効用や書の文化や伝統を幅広く理解して、そのよさや美しさを深く味わうとともに、表現と鑑賞の関連性を理解している。

【「B鑑賞」の評価規準の具体例】

芸術への関心・意欲・態度	鑑賞の能力
<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 伝統芸術としての書の魅力や日常生活における書の効用に気付き、書への興味・関心をもっている。 ・ 日常生活における手書き文字のよさや美しさを感じ取っている。 ・ 伝統芸術として表現された書の美しさを感じ取っている。 ・ 地域の文化財に関心をもち、情報機器などを活用しようとしている。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 書に対する関心をもち、美しいと感じたり、楽しいと思えるような書の発見に心がけている。 <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本及び中国等の書について、そのよさや美しさを感じ取っている。 ・ 日本と中国等漢字文化圏を比較し、各時代の文化について関心をもち、意欲的に理解しようとしている。 	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 表現と鑑賞の関連性を踏まえ、日常生活における書の効用を理解している。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 書の美に対する第一印象を大切にし、自分の感じ方や好みを発表しようとする。 ・ 他者の味方や鑑賞内容を聞くことにより、自らの鑑賞を深めている。 ・ 鑑賞と表現は相互に関連していることを理解し、書のよさや美しさを感じ取っている。 <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 歴史の学習と関連づけ、表現されたものの特性や表現効果、価値等に関心をもち、知的な面から書について理解している。

2 「指導と評価の年間計画」

科目名

書道

科目の目標

書道の幅広い活動を通して、書を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、書写能力を高め、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばす。

評価の観点の趣旨

	関心・意欲・態度	芸術的な感受や表現の工夫	創造的な表現の技能	鑑賞の能力
書道	書を愛好し、意欲的、主体的に表現や鑑賞の活動を行い、その喜びを味わおうとする。	感性を豊かにし、書のよさや美しさを感じ取り、自らの意図に基づき構想し、表現を工夫する。	創造的な表現をするために書写能力を高め、用具・用材を生かした、表現の技能を身に付けている。	日常生活における書の効用や日本及び中国等の書の文化などを理解し、そのよさや美しさを深く味わう。

月	単元名	使用教科書項目	時	主な学習活動（指導内容）と評価のポイント（ ）	評価方法
4月	書の美・書の表現	書の分野 鑑賞と臨書 姿勢・執筆 用具・用材 毛筆の特性 用筆の基本	2	・国語科書写と芸術科書道の関連と違いについて理解し、学習への取組の姿勢を確立する。 ・書の美を構成する様々な要素について考え、学習の基礎を確立する。 書の表現が用具・用材と深く関係していることや、性能について理解している。	・アンケートの実施 ・行動観察 ・プリント確認
5月	漢字仮名交じりの書1	漢字仮名交じりの書の美 姿勢・執筆法練習 書写から書道へ いろいろな線による表現 用具・用材による表現 紙面構成のバリエーション 鑑賞、作品制作	13	・漢字と仮名の学習の調和をはかり、現代にふさわしい書作品とする。 自ら課題を見つけ、様々な表現技法を使ってセンスあふれる作品に挑戦しようとしている。 運筆のリズムや筆圧の変化を考え、自分の意図にあった表現ができる。 筆、墨色、墨量、紙の違いによる変化を感じ取ることができる。 縦書き、横書き等による字形・文字の大きさや全体構成を工夫することができる。	・イメージの発表 ・作品カードに記入し、提出 ・行動観察 ・作品の提出 ・他者評価カードの記入 ・鑑賞カードの提出
6月	漢字の書1	《楷書の学習》 楷書の美 鑑賞 作品制作	20	・楷書の基本的な用筆法を習得する。 ・楷書の基本点画を習得する。 ・姿勢・執筆法を習得する。 古典の作品を通して書写の心情、歴史的背景に興味	・イメージの発表 ・作品カードに記入し、提出 ・行動観察

7月	漢字の書2	《行書の学習》 行書の美 行書の特徴 鑑賞 作品制作 生活の中の書	<p>をもっている。</p> <p>各々の古典の書風の違いを分析することができる。</p> <p>用筆法の違いにより、様々な線を表現することができる。</p> <p>古典の臨書と鑑賞を通して、多様な表現方法を理解し、学習への興味と意欲をもっている。</p> <p>古典の良さや美しさを味わうことができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・作品の提出 ・他者評価カードの記入 ・鑑賞カードの提出 	
9月			<ul style="list-style-type: none"> ・表現の技法を習得する。 <p>楷書と行書の違いを理解している。</p> <p>用筆法の違いにより、様々な線を表現することができる。</p> <p>古典には筆者の心の動きや個性が表れていることを理解している。</p> <p>各古典を比較鑑賞し、古典の良さ、美しさを感じ取ることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージの発表 ・作品カードに記入し、提出 ・行動観察 ・作品の提出 ・他者評価カードの記入 ・鑑賞カードの提出 	
10月	仮名の書	仮名の成立 仮名の美 仮名の基本的な筆使い 仮名の単体・連綿、変体仮名 作品の鑑賞 生活の中の書 作品制作 書作品と料紙	15	<ul style="list-style-type: none"> ・仮名独特の美しさ、用筆法、運筆のリズムを取得する。 <p>磨墨の良さを理解することができる。</p> <p>仮名の成立過程、及び字源について理解を深めている。</p> <p>連綿、散らし書きの学習を通して仮名の美を追究することができる。</p> <p>散らし書きに思い切った表現の工夫が見られる。</p> <p>変体仮名を自由に使いこなすことができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージの発表 ・作品カードに記入し、提出 ・行動観察 ・作品の提出 ・他者評価カードの記入 ・鑑賞カードの提出
11月	篆刻	自分の印を刻ってみよう 《篆書》 《篆刻》	6	<ul style="list-style-type: none"> ・手順、技法を習得する。 <p>用具、用材の扱い方を身につける。</p> <p>自作の印（姓名印）を持つ喜びを味わい、篆刻に対する興味をもっている。</p> <p>文字造形の面白さを味わっている。</p> <p>個性あふれるオリジナルな表現を工夫することができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージの発表 ・作品カードに記入し、提出 ・行動観察 ・作品の提出 ・他者評価カードの記入 ・鑑賞カードの提出
12月	漢字仮名交じりの書2	生活の中の書・ 実用書の学習	14	<ul style="list-style-type: none"> ・創作の手順と要領をつかむことができる。 <p>たくましく、躍動感あふれる運筆ができる。</p> <p>創作することの楽しさ、充実感を味わうことができる。</p> <p>個性的でオリジナルな表現を工夫することができる。</p> <p>書の日常性に目を向け、生活の中に積極的に取り入れようとしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージの発表 ・作品カードに記入し、提出 ・行動観察 ・作品の提出 ・他者評価カードの記入 ・鑑賞カードの提出
1月				<ul style="list-style-type: none"> ・創作の手順と要領をつかむことができる。 <p>たくましく、躍動感あふれる運筆ができる。</p> <p>創作することの楽しさ、充実感を味わうことができる。</p> <p>個性的でオリジナルな表現を工夫することができる。</p> <p>書の日常性に目を向け、生活の中に積極的に取り入れようとしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージの発表 ・作品カードに記入し、提出 ・行動観察 ・作品の提出 ・他者評価カードの記入 ・鑑賞カードの提出
2月				<ul style="list-style-type: none"> ・創作の手順と要領をつかむことができる。 <p>たくましく、躍動感あふれる運筆ができる。</p> <p>創作することの楽しさ、充実感を味わうことができる。</p> <p>個性的でオリジナルな表現を工夫することができる。</p> <p>書の日常性に目を向け、生活の中に積極的に取り入れようとしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージの発表 ・作品カードに記入し、提出 ・行動観察 ・作品の提出 ・他者評価カードの記入 ・鑑賞カードの提出
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・創作の手順と要領をつかむことができる。 <p>たくましく、躍動感あふれる運筆ができる。</p> <p>創作することの楽しさ、充実感を味わうことができる。</p> <p>個性的でオリジナルな表現を工夫することができる。</p> <p>書の日常性に目を向け、生活の中に積極的に取り入れようとしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージの発表 ・作品カードに記入し、提出 ・行動観察 ・作品の提出 ・他者評価カードの記入 ・鑑賞カードの提出 			

3 「単元ごとの指導と評価の計画」（評価規準を含んだ指導と評価の計画）

書 道

科目の目標

書道の幅広い活動を通して、書を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、書写能力を高め、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばす。

評価の観点の趣旨

	関心・意欲・態度	芸術的な感受や表現の工夫	創造的な表現の技能	鑑賞の能力
書道	書を愛好し、意欲的、主体的に表現や鑑賞の活動を行い、その喜びを味わおうとする。	感性を豊かにし、書のよさや美しさを感じ取り、自らの意図に基づき構想し、表現を工夫する。	創造的な表現をするために書写能力を高め、用具・用材を生かした表現の技能を身に付けている。	日常生活における書の効用や日本及び中国等の書の文化などを理解し、そのよさや美しさを味わう。

漢字仮名交じりの書 1

ここでは「漢字仮名交じりの書」についてのみ掲載する。

単元の目標

現代の日本の言語である漢字仮名交じりの書の良さを感じ取り、自らの意図に即した表現技法を身に付けさせると共に、主体的に表現や鑑賞の活動を行い、その喜びを体験させる。

単元ごとの評価規準

	関心・意欲・態度	芸術的な感受や表現上の工夫	創造的な表現の技能	鑑賞の能力
漢字仮名交じりの書を通して、書写能力や鑑賞能力を高め、生活に即した書表現に関心を持ち、意欲的、主体的に活動を行い、その喜びを味わおうとする。	感性を豊かにし、漢字仮名交じりの書のよさや美しさを感じ取り、創造的な表現を工夫する。	漢字仮名交じりの書を通して自己を主体的に表現する能力を伸ばし、実用的な表現や芸術的な表現の基礎的な技能を身に付けている。	漢字仮名交じりの書が生活の中で果たしている役割を理解し、そのよさや美しさを深く味わうと共に表現と鑑賞の関連性を理解している。	

各授業時間ごとの主な内容（1時間：65分授業）

1 書写から書道へ 漢字と仮名の調和の理解				
	学習目標	主な学習活動	具体的評価規準（ ）	評価方法
第1時間目	様々な表現の方法（書風の違い）を理解する。 漢字と仮名を調和	書風の違う作品を鑑賞し、感じたことを話し合う。 自分の気持ちが表現でできる書き方を考える。 課題語句を書く。	漢字と仮名の調和と線質との関係について関心を持ち、意欲的・主体的に取り組んでいる。【関】 漢字と仮名の字形や文字	・意見発表 ・机間指導による表現態度観察 ・作品制作プリントの提出 ・提出作品

芸術（書道）

させる表現方法を理解する。	の大きさなどが全体の構成に関わることに気付き、表現を工夫している。【工】
---------------	--------------------------------------

2 いろいろな線による表現 起筆の向きの違いによる表現				
	学習目標	主な学習活動	具体的評価規準（ ）	評価方法
第2・3時間目	整然とした感じの線を表現する。	整然とした感じを表現するにはどのような起筆で、どのような線で書けばよいか工夫する。課題語句を書く。（「九成宮禮泉銘」の臨書）	古典の美とその技法に関心を持ち、表現技法を高めようとしている。 【関】 漢字の書の美に対する感性を養い、意図に基づく表現の構想を工夫している。【工】	・意見発表 ・机間指導による表現態度観察 ・作品制作プリントの提出 ・提出作品
第4・5時間目	力強く角張った感じの線を表現する。	力強く角張った感じを表現するにはどのような起筆で、どんな線で書けばよいか工夫する。課題語句を書く。（「牛欄造像記」の臨書）	古典の美とその技法に関心を持ち、表現技法を高めようとしている。 【関】 漢字の書の美に対する感性を養い、意図に基づく表現の構想を工夫している。【工】	・意見発表 ・机間指導による表現態度観察 ・作品制作プリントの提出 ・提出作品
第6・7時間目	おおらかで落ち着いた感じの線を表現する。	おおらかで落ち着いた感じを表現するにはどのような起筆で、どんな線で書けばよいか工夫する。課題語句を書く。（「鄭義下碑」の臨書）	古典の美とその技法に関心を持ち、表現技法を高めようとしている。 【関】 漢字の書の美に対する感性を養い、意図に基づく表現の構想を工夫している。【工】	・意見発表 ・机間指導による表現態度観察 ・作品制作プリントの提出 ・提出作品
第8・9時間目	堂々として重厚な感じの線を表現する。	堂々として重厚な感じを表現するにはどのような起筆で、どんな線で書けばよいか工夫する。課題語句を書く。（「建中告身帖」の臨書）	古典の美とその技法に関心を持ち、表現技法を高めようとしている。 【関】 漢字の書の美に対する感性を養い、意図に基づく表現の構想を工夫している。【工】	・意見発表 ・机間指導による表現態度観察 ・作品制作プリントの提出 ・提出作品
第10	リズムカルで、軽快な感じの線を表	リズムカルで、軽快な感じを表現するにはど	古典の美とその技法に関心を持ち、表現技法を高	・意見発表 ・机間指導による表

芸術（書道）

・ 11 時 間 目	現する。	のよな起筆で、どんな 線で書けばよいか工夫 する。 課題語句を書く。（「蘭 亭序」の臨書）	めようとしている。 【関】 漢字の書の美に対する感 性を養い、意図に基づく 表現の構想を工夫してい る。【工】	現態度観察 ・ 作品制作プリント の提出 ・ 提出作品
------------------------	------	---	--	--------------------------------------

3 用具用材による表現の変化				
	学習目標	主な学習活動	具体的評価規準（ ）	評価方法（ ）
第 12 時 間 目	筆の違いによって 表現が変化するこ とを理解する。	課題語句を書く。	毛の材質・長さ・大き さの違いにより、線質や表 現内容が変わることを理 解し、表現を工夫してい る。【工】 自らの表現意図に即した 筆を選び、表現活動を楽 しんでいる。【関】	・ 意見発表 ・ 机間指導による表 現態度観察 ・ 作品制作プリント の提出 ・ 提出作品
第 13 時 間 目	墨色・墨量の違い によって表現が変 化することを理解 する。 紙の違いによって 表現が変化するこ とを理解する。	課題語句を書く。	濃墨・淡墨の違い、潤筆 ・ 渴筆の変化による美し さを感じ取り、表現の幅 を広げる技能を身に付け ている。【技】 用具・用材の特性を生か した表現効果を理解し、 意図に応じた用具・用材 を選択している。【工】	・ 意見発表 ・ 机間指導による表 現態度観察 ・ 作品制作プリント の提出 ・ 提出作品
第 14 時 間 目	様々な用具用材に よって表現が変 化することを理解す る。	課題語句を書く。	自分の表現意図に合った 筆以外の用具用材を探し てくることができる。 【工】 表現の構想から完成に至 るまでの充足感を味わい、 主体的に自己実現を果た していく態度が身に付い ている。【関】	・ 意見発表 ・ 机間指導による表 現態度観察 ・ 作品制作プリント の提出 ・ 提出作品

4 紙面構成のバリエーション				
	学習目標	主な学習活動	具体的評価規準（ ）	評価方法（ ）
第 15 時 間 目	字形、文字の大き さと全体構成につ いて理解する。	課題語句を書く。	文字の配置や行間、それ に伴う余白の取り方、落 款の位置や大きさなど について理解している。 【技】	・ 机間指導による表 現態度観察 ・ 作品制作プリント の提出 ・ 提出作品

芸術（書道）

			他者や自分の作品を鑑賞し、他者の意見を取り込み、更に新しい作品制作の展開に生かすことができる。【鑑】
--	--	--	--

5 漢字仮名交じりの書による創作				
	学習目標	主な学習活動	具体的評価規準（ ）	評価方法（ ）
第16時間目	書きたい言葉や詩文選び、適切な表現方法を工夫する。	自分の意図する表現にふさわしい作品を参考にして、表現の方法を工夫する。	自分の思考や感動を表現できる言葉選びをし、主体的に取り組む姿勢をとることができる。【関】 漢字と仮名の調和した線質の表し方やその美しさを理解し、表現を工夫している。【工】	・机間指導による表現態度観察 ・鑑賞プリント提出による確認 ・作品プリント提出による確認 ・提出作品
第17時間目	全体構成を考えて表現の工夫をする。	作品制作	作品の大きさ・形式、字形・字配り、余白などを考え、意図に基づく創造的な表現をしている。【技】	・机間指導による表現態度観察 ・作品プリント提出による確認 ・提出作品
第18時間目	用具用材を考えて表現の工夫をする。 他者の作品を鑑賞する。	意欲的に作品制作に取り組み、その喜びを味わおうとする。 鑑賞を通して、書の美しさや個性に裏打ちされたよさを味わおうとする。	筆の種類、墨の濃淡、潤濁、紙質などを考え、線質、字形、全体構成などに生かせるよう積極的に工夫している。【工】 他者や自分の作品を鑑賞し、他者の意見を取り込み、更に新しい作品制作の展開に生かすことができる。【鑑】	・机間指導による表現態度観察 ・作品プリントによる確認 ・提出作品 ・他者評価カード提出による確認

【関】 = 関心・意欲・態度 【工】 = 芸術的な感受や表現の工夫

【技】 = 創造的な表現の技能 【鑑】 = 鑑賞の能力

4 「授業指導案」(例)

教科(科目)	書道		単元名	漢字仮名交じりの書
本時の主題	運筆法の違いによる線の工夫			(3時間目 / 13時)
本時の目標	ア 運筆のリズム、筆圧の変化について考え、自分の意図にあった表現方法を考えさせる。 イ 表現上のテーマを掲げて研究させ、表現を積極的なものとして体験させる。 【工】【技】			
教材観	(略)			
生徒観	(略)			
	学習の内容	学 習 活 動	指導上の留意点・観点別評価	
導入 10分	・前時の学習内容を確認し、本時の学習内容と目標を理解する。	・前時の作品に自分の気持ちが表現されているか確認し、友達の作品を鑑賞する。	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の作品を掲示しておく。 ・作品については細部まで解説しない。 ・できるだけ良さを見つけ、意欲の喚起を促す。 ・作品カードに鑑賞内容を記入させる。 	
展開	・いろいろな線による表現の仕方を理解し、作品作りのねらいを明確にする。	<ul style="list-style-type: none"> ・参考プリント(3種類の書き方の例)の内容を確認する。 ・本日の課題「いい日旅立ち」を、以下の3種類の書き方で書く。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>[板書事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・軽快な感じを出す。 ・整齊とした感じを出す。 ・落ち着いた感じを出す。 </div>	<p>目標アに対する具体的評価規準と評価方法</p> <p>[規準]「いい日旅立ち」について、表現上の重点を意識した書き方ができる。【技】</p> <p>[方法]机間指導による観察 Cの生徒への手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・用筆法を個別指導する。 	
	・運筆法の違いによる線の工夫をし、自分の意図にあった表現方法を考える。	・自分で表現のテーマを設定し、本時の課題「いい日旅立ち」を自分の表現方法で書く。	<p>目標イに対する具体的評価規準と評価方法</p> <p>[規準]各自が重点としている箇所の表現方法に工夫している。 【工】</p> <p>[方法]机間指導による観察 Cの生徒への手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運筆法を個別指導する。 <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人のねらいを大切にしてお手紙を添削する。 ・書かれた作品を必要に応じて掲示板に張り、紹介する。 	
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の反省を行う。 ・次回の学習内容を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分として良くできた作品を1枚提出する。 ・自分のねらい通りに書けたかを作品カードに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に楽しく作品作りができたかどうか確認する。 <p><評価方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・提出された作品および作品カードによる。 	